

# 農地・施設 二次被害防げ

## 農村工学研 整備計画を提案 大震災で報告会

農研機構・農村工学研究所は31日、東京都内で、東日本大震災で損壊した農地、農業用施設などの調査結果と、復旧に向けた技術支援状況の報告会を開いた。ため池や農地の排水施設、用水路、パイプラインなどの被災状況を報告し、応急的な復旧対策や中・長期にわたる整備計画のあり方などを提案した。

同研究所の堀俊和上席研究員は、ため池の被害状況と技術対策を報告した。被害を受けたため池は、堤高15メートル以上と規模が大きく、築造年代が古いのが特徴と報告。

「かんがい期直前の被害で、貯水がほぼ満水状態だったことが被害を大きくした」と分析した。決

壊して貯水が全て流出した青田新池（福島県本宮市）の他、上流斜面の崩壊、堤体に亀裂が入り漏水したケースなどがあった。

堀上席研究員は亀裂ができた堤体の復旧方法を紹介。地震で変形した堤体が今後の豪雨でも崩壊しないよう、亀裂を保護し、低めの水位での水管理を求めた。さらに下流に民家がある場合など、今後の二次被害が起きうるため池を調べ上げ、「被害が出ないよう復旧計画で考慮すべきだ」と強調した。

同研究所は3月11日の地震発生直後に災害対策支援本部を設置。二次被災防止のための施設診断や応急措置の提案、被災

した農地・水利施設の復旧などの技術支援を行っている。